

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0970102604		
法人名	医療法人 北斗会		
事業所名	グループホーム 宇都宮		
所在地	栃木県 宇都宮平出町377番地1	電話:	028-689-6600
自己評価作成日	平成 26年 7月 31日	評価結果市町村受理日	平成 26年 9月 10日

※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/">http://www.kaigokensaku.jp/09/</a>
------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 26年 8月 20日	評価確定(合意)日	平成 26年 9月 5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

同敷地内に病院や介護老人保健施設が併設されています。併設病院とは医療連携体制をとっており、24時間体制での対応が可能であり、また、週に一度看護師による定期訪問を行っています。1日の日課は特に定めておらず、ご利用者の生活習慣に合わせ、「自分らしく」「家庭的な」生活が送れるよう支援しています。自治会に加入し、行事にも参加しており地域の方との交流を図っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

宇都宮市の東部郊外に位置した2階建て2ユニットのグループホームで、敷地内には同法人の病院、介護老人保健施設があります。病院とは24時間対応可能な体制が取られており、利用者・家族にとって大きな安心感に繋がっている。職員の研修は、介護老人保健施設と合同で行うなど質の高いサービス提供を目指してレベルアップに努めている。地域とのかかわりを大切にし行事には積極的に参加しており、昨年8月に自治会に加入し地域の一員として隣接の駐在所に回覧板を届けたり、更に地域との交流の輪を広げていくよう努めている。また、地域のボランティアや中学生の職場体験、専門学校の実習生を多く受け入れており、利用者の楽しみでもあり、職員にとっても新鮮さがあり共に学ぶ良い機会になっている。日課は特に決めておらず、理念である「その人らしい生活」、家庭的な雰囲気の中で「真心のある介護」の実践に管理者を中心に職員が丸となって取り組んでいる事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (1階) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を朝礼、申し送りの際、唱和を行っている。また、カンファレンスやホーム会議など様々な場を通して理念の確認を行いケア統一を図り実践につなげている。	「その人らしい生活」・「真心のある介護」を如何に提供できるかを念頭におき、その日のスタートの心構えとして朝礼時や、カンファレンスの前に全員で理念を唱和している。申し送り時の具体事例をあげて意思統一を図りながらケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	平石地区市民センターでのコンサートに参加し、地域の方と交流を図ったり、自治会に加入し行事に参加をしている。また、飲食店にも出かけたりしており、地域の方との関わりを積極的に図っている。	地域や自治会の行事、催し物には積極的に参加し地域との交流の機会を多く持つように心掛けている。自治会加入により回覧板を隣接の駐在所に届ける機会もでき、更に地域の一人として関わりを広げていくよう努めている。地域のボランティアや中学生の職場体験、専門学校の実習生も多く受け入れており利用者の楽しみにもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の人との交流時に認知症に対する理解や援助等を伝え共に協力できることはないかと都度確認している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加しているご家族へ年間行事計画案を提示し、ご家族にも参加いただけるように働きかけをし、サービス向上を図っている。また、定期的にボランティアの方々にも協力をいただいている。	事業所の行事に合わせるなど工夫しながら定期開催している。メンバーは利用者、家族(毎回3~13名参加)、自治会長、包括支援センターで、利用者の状況報告に関する質疑に加え、地域の情報提供が得られたり、避難訓練などについての意見交換が行われている。意見や提案は改善に繋げサービス向上に努めている。家族には議事内容をホーム便りで知らせている。	会議のメンバーとして例えば駐在所の警察官、民生委員、また議題に応じて消防署職員などにも依頼し事業所運営に理解と協力を得る機会とすると同時に、幅広い角度からの情報提供を得て会議の充実を図り、サービス向上に繋がることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苦情やご意見など解決困難事例があった時には、宇都宮市役所内の窓口相談助言をいただき、協力体制構築を図っている。事故発生時には、すぐに報告し、適切な対応を行えるよう助言をいただいている。	変更申請やヒヤリハット報告書提出などで市役所を訪れた際には事業所の取り組み状況などを積極的に伝え協力関係を築くようにしている。制度上で分からないことや判断に迷うことが生じた場合は電話で相談しアドバイスを受けるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より玄関の施錠は基本的に行っていない。身体拘束の研修会への参加、カンファレンスで常時話し合いを行っている。しかし、危険が伴うときには主治医と連携を図り期間や時間を決めケアプランを作成し、ご家族に同意をいただき行うことがある。	必修研修として年1回全職員が受けており、正しい理解を図っている。事業所内での具体的な例なども取り上げて話し合い拘束のないケアの実践に繋げている。玄関の施錠は最小限にして、見守り寄り添うことで自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活において自尊心を傷つけないよう言葉遣いやケアの仕方の統一を図っている。施設内外にて研修に参加し学習を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修後には、ホーム会議などで資料のコピーを配布するとともに必ず伝達研修を行い、その都度制度の確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、当日に重要事項説明書などの書類の説明を行い、同意書にサインをいただいている。不明な点があった場合にはその都度ご家族が不安の無いように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者ごとに担当の職員を決めており、ほかの職員でも面会時にはこまめに声をかけていくことで信頼関係が築けるような環境作りを目指している。ご意見箱を設置し、意見をいただいている。	担当職員制は本人、家族との関係をより密にし些細なことでも気軽に話せるような信頼関係を築いている。家族から「職員がキッチンで用するエプロンは専用のものを使用しては」などのアドバイスを受け反映している。運営推進会議にも毎回家族の参加があり意見、提案は可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議や随時行うカンファレンスにおいて意見の交換や提案ができるようにしている。夜勤者またその場になかった職員に対しても申し送りノートを活用し多くの職員の意見が反映できるようにしている。	日常の業務の中でも些細なことでもフランクで話しやすい雰囲気作りに心がけている。ホーム会議では座席を決めず管理者も空席のところに座るなど全員が発言しやすい雰囲気作りをし意見の潜在化を防いでいる。出された提案や、アイデアは支障がない限り取り入れてみる管理者の姿勢は職員の仕事への意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定により給与水準や労働時間は決められている。1日の業務が時間内に終わるように勤務状況の把握や業務内容の改善の努めている。やりがい、働きやすい職場を目指しており職員の報・連・相を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や高齢者全般において行われている外部の研修に職員を参加させ、ほかの職員に伝達をし、施設全体のレベルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域では、平石地区防災福祉ネットワークを通じ各施設に協定を組んでいる。防災訓練への参加などを行いネットワークの構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の様子を常に観察し表情変化などを見逃さず、すぐに対応ができるように配慮している。定期的に時間を作り、担当職員と個別に時間を取りゆっくと外出をするなど良い関係ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、ご家族の話を傾聴し、入居後も話しやすい環境を作り些細なことでも対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状態に合わせたサービスの活用ができるように担当ケアマネージャーや併設の施設職員と連携を図り、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、野菜の栽培、食事やおやつ作り、季節ごとの飾りつけなどを職員の教えを受けながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	三ヶ月に一度ホームだよりにて、近況報告をしている。変化があった場合には随時電話などで報告をしている。行事への参加を積極的に行い一緒に参加していただき家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時には好きなところでお茶をしながら談笑をされている。ご家族にも協力をいただき外食などを勧めている。	家族以外の訪問者は少ないが、親戚の方が敷地内の病院受診の折に訪ねることもあり、来所された時は玄関先でなく利用者の好む場所でお茶を飲みながらゆっくり話ができるよう配慮している。馴染みの場所や店での買い物などの希望があれば職員が同行したり、家族に協力を依頼したりして馴染みの関係を途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が交流できるように、席替えをおこなったり、職員と一緒に気の合うご利用者同士で外出ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたり、入院したご利用者へはご家族の了解をいただきご利用者と施設や病院へ一緒に伺うことがある。必要に応じてご家族と連絡を取り、フォローに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、ご利用者が生活をしていくうえでの希望や要望を伺っている。また、カンファレンスで共有し、ケアプランに反映させ個別ケアを行っている。	担当職員制を取り入れており日常のコミュニケーションの中で、暮らし方の希望など思いや意向を受け留めている。さらに意思の疎通が困難な利用者には行動や表情からもサインを見逃すことなく思いを汲み取っている。新たな情報はカンファレンスなどで共有し、以前の情報と照らし合わせ変化を見極めながらケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご利用者、ご家族から情報を収集している。また、同意を得た上で担当ケアマネジャーからも情報を収集している。入居後もご家族の面会時に確認し、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者全員で体操を行う以外は一日の日課は決めておらず、一人ひとりのペースで生活が送れるようにしている。毎朝バイタルの測定、排泄、食事、摂取状態を把握し、体調管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族からの希望や要望を伺い、カンファレンスを行い介護計画の作成を行っている。ご利用者の状態に変化があった場合は、随時計画の変更を行い、ご家族に説明している。作成した介護計画は、ご家族に説明し、承諾をいただいている。	介護記録を基本に、職員が把握している状況と本人・家族との関わりの中で把握した意見や要望を併せてカンファレンスを行っている。意見・要望をできるだけ多く取り入れ現状に即した本人本位の計画となるように反映させている。作成後介護計画は、本人・家族に直接説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子やケアの実践など、個別記録の記入し、統一したケアの実践につなげている。また、記録をもとに、カンファレンスにて、ケアの方法や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院受診や週1回の医療相談を通じて、医師、看護師、管理栄養士などご利用者の状況の把握をしている。法人内の資源の紹介など必要に応じた介護サービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地域との交流が深められるようにしている。平石地区の地域行事への参加や地元中学校の体験学習の受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別にかかりつけ医を決めている。原則的に受診についてはご家族の協力を得て対応しているが、状態によっては職員が同行することもある。月1回併設病院からの往診や週1回看護師の定期訪問があり適切な医療ケアが受けられるようにしている。	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医を決めている。受診は家族対応を原則としているが、隣接の同法人の病院受診は事業所が対応している。看護師は週1回の訪問、医師は月1回の訪問診療があり、医師、看護師の連携で利用者の状況を共有しており、日ごろの健康管理や急変時などについても本人・家族にとって安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の定期訪問を受けるほか、ご利用者の状態に変化があった場合には、24時間併設病院での対応ができるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関において、病院関係者と早期退院に向けて話し合いを行っている。他院転院時にはご家族の不安が軽減できるよう連絡を取り合い、医療機関との連携体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療方針について説明し、ご家族からの希望を伺っている。また、ご利用者の現在の様子や重度化した場合の対応について、随時話し合いを行っている。ご本人・ご家族の希望を伺いながら、主治医や看護師と連携を取り、施設で出来ることを行っている。	重度化した場合の対応は入居時に説明すると同時に、早い時点から本人・家族・主治医と話し合い、意向を確認し対応している。事業所での看取り対応が可能な状態で本人・家族が希望した場合は関係スタッフと連携を取り看取りの介護対応をする方針を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宇都宮シルバーホームでの研修会に参加し、応急手当や初期対応の訓練をしている。緊急時の対応についてマニュアル化しており、併設病院との連携について随時確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。毎月10日に施設内の防火自主点検を行っている。法人内3施設合同の防災訓練時には平石地区防災ネットワークの方々への参加もあり、地域との連携を図っている。	夜間想定訓練を年2回実施し、内1回は病院、老健合同で行っている。3施設合同の訓練は消防署の立会いのもと地域住民、地区防災福祉ネットワーク、地域の協力を得て実施している。毎月、自主防火点検も行い火災予防に努めている。車椅子使用者など移動に困難を伴う利用者は1階に、自力で移動が可能な利用者は2階に分けて、迅速な避難誘導に繋げている。	夜間想定訓練は実際に夜間(やや暗くなった状態)で実施し、明るい昼間との違いの中で体験し新たな課題の発見と改善に繋がることに期待します。また、実施後に反省会を設け次回に活かした訓練となることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの考えと意見を尊重し受容する姿勢を取り、自尊心を傷つけないような対応を心がけている。プライバシーの確保には全職員を対象とし、法人内の研修を受け、秘密保持について徹底している。	人生の先輩という気持ちをいつも念頭に置き、受容の姿勢で接している。利用者の話には耳を傾け誇りやプライバシーを損ねないように言葉づかいは常に気をつけて対応している。個人情報については全職員が研修(Pマーク受証)を受け秘密保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれのご利用者に応じた生活が送れるよう、ご家族からも情報を得たり、信頼関係を築き本人の意思を尊重し希望を把握できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日一日の予定は、当日のご利用者の気分や体調に合わせて、希望や要望を尊重し、職員間で連携を行い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合ったものや、以前から使用していた愛着のある衣類や日用品を使用できるようにしている。温タオルにて顔や足の清拭も毎日行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや身体に合った食事を調理し、食器類は本人専用の物で提供している。誕生日や出前、外食では、ご本人に好きな物を選んで頂いている。	食材は質を重視して専門店から取り寄せ、職員が交代で利用者の好みや体調にも配慮して調理している。飲み物は何時でも好きなものを自由に飲めるようにしている。月に1回は外食に出かけたり誕生日には希望するメニューが出されるなど食の変化を楽しむ機会がある。家庭菜園で栽培した野菜が食卓に出されることもあり楽しみになっている。自分の食器を後片付けをしている利用者も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを使用し調理を行っている。温度板にて摂取量を記録し、特変があった場合にはその方にあった方法で対応を行い、職員間での申し送りを徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後には必ず口腔内のケアを行っている。うがい薬や義歯洗浄剤を使用し、殺菌や消毒、口臭防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、個人の排泄パターンの把握に努め、ご利用者一人ひとりに合わせて声かけや見守り、誘導を行っている。必要に応じてパットやオムツの使い分けをしている。	職員は排泄チェック表から個人の排泄パターンを把握しており、その時々表情・仕草などから察知し、さりげなく声掛けをしてトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援をしている。誘導によるトイレでの排泄に努めているが、夜間はリハビリパンツ、パットを使用している利用者が数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、ラジオ体操やアクティビティを行い運動する時間を作っている。便秘予防のため、食物繊維の多い食材を使用したり、ヨーグルトやヤクルトなど乳酸菌の豊富な食品も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の生活のリズム、体調、気分に合わせて声かけをし、入浴剤を用いながら希望される時間に入浴して頂いている。	希望する時間帯に週2回以上の入浴を勧めている。入浴剤や菖蒲、ゆずなどを入れて季節感を味わいながら入浴を楽しめるようにしている。時々入浴を拒む利用者もいるが誘導方法などの工夫で対応している。浴槽に入ると安堵の笑顔になる。利用者との信頼関係が深まり本音の聴ける場であり貴重な時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズム、日々の状態の把握に努め、状況に合わせた休養が取れるようにしている。安心して休めるように使い慣れた寝具類を持ち込んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い、服薬の管理を行っている。薬局にて薬の情報を提供し頂き、内服後の変化がないか状態の観察を行い、変化があった場合には、医師、看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に、身体の状態に合わせてながら日常生活の中での役割を担って頂いている。季節感が取り入れられるようにメニューの工夫や話題を提供し、外出など実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に外気浴を行ったり、周辺の散歩をしている。希望に合わせて少人数での外出や地域でのコンサートに出かけるなどの個別ケアを行っている。行事の時にはご家族にも声かけし、一緒に出かけられるようにしている。	事業所周辺を散歩したり車で近くのショッピングモールに出かけ買い物や好きな食事をしたりしている。地域で行われるコンサートやドライブを兼ねての花見、紅葉狩りなども楽しみになっている。家族訪問時には戸外の散歩などに一緒に出かけてもらうように働きかけている。	



自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご家族と十分に相談し、自分で管理できる範囲で所持している。外出時にはご本人が支払いができるように支援し、後日家族に請求する形を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族に連絡を希望されているときには施設の電話を使用してかけている。手紙などの取次も行っており宛先の確認などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者がくつろぐ明るく暖かいリビングにはソファ席とテーブル席があり、ご利用者同士共有できるようになっている。季節ごとの飾り物の作成や植物、生き物の世話などをしていただいている。リビングの壁には行事の写真が掲示してある。	ゆったりと寛げるスペースのあるリビングや利用者の居室がキッチンからも見通せて、見守り、安全確認が自然な雰囲気の中で出来るような構造になっている。玄関やリビングのスペースにさりげなく飾られている季節の花は心和む雰囲気がある。周りの壁には利用者の作品や行事の写真が掲示されている。ソファでテレビを見たり、隣同士で話をしたりゆったりした生活をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席で新聞を読んだり、飾り物の作成をしたり、ソファ席で雑談をしたり仲の良い方同士ゆっくりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と相談のうえ、使い慣れた家具類を持参していただいている。仏具などを持ち込まれている方もおり、一人ひとり自分らしい居室で穏やかに過ごせるように配慮をしている。	利用者が住みなれた自宅とあまり遊離しないように居室には家庭で愛用していた馴染みの物や、手作りの作品、家族の写真、なかにはご主人の位牌などを持ち込み、居心地良く穏やかに過ごせるように配慮している。いずれもその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をつけたり、トイレや浴室がわかりやすいように目印をつけている。リビングにはご利用者と一緒に作成したカレンダーを提示し、毎日の当番の方が読み上げたりしている。		